看護学部　看護学科
複数の「新しい能力」への対応

看護学科 卒業の認定に関する方針	学士力（学士課程答申）													社会人基礎力												日本学術会議 大学教育の分野別質保証のための 教育課程編成上の参照基準 看護学分野 4(2)看護学士課程で学ぶすべての学生が身につけるべき基本的素養（看護学士教育課程を通して学生が獲得すべき基本的能力）					
	知識・理解		汎用的能力					態度・志向性					統合的な学習経験と創造的思考力	前に踏み出す力			考え抜く力			チームで働く力											
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)																			
(主文) 建学の精神に基づき、看護学の専門的知識と実践力を有し、保健・医療・福祉・教育等の場において、人々の健康な生活の保持増進に関わり、広く社会に貢献できる看護系人材を養成します。	多文化・異文化に関する知識の理解	人類の文化，社会と自然に関する知識の理解	コミュニケーション・スキル（日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。）	数量的スキル（自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。）	情報リテラシー（情報通信技術（ＩＣＴ）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。）	論理的思考力（情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。）	問題解決力（問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。）	自己管理力（自らを律して行動できる。）	チームワーク，リーダーシップ（他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。）	倫理観（自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。）	市民としての社会的責任（社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ，社会の発展のために積極的に関与できる。）	生涯学習力（卒業後も自律・自立して学習できる。）	これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール力	全人的に対象をとらえる基本的能力	ヒューマンケアを提供するために必要な基本的能力	根拠に基づく看護を展開できるために必要な基本的能力	健康課題に対応した看護を展開できる基本的能力	ケア環境とチーム体制を整備し看護を展開できる基本的能力	生涯専門職として研鑽を継続していく基本的能力
1.多様な価値観を認め、あらゆる人々を尊重する態度で倫理的に行動できる。（知識・理解、思考・判断、態度）	●	●		●		●				●												●		●		●	●				
2.自己を見つめ、主体的・自律的に行動することができ、専門職業人として看護学の発展に寄与していく姿勢を備えている。（思考・判断、態度）			●					●				●		●										●							●
3.看護職の専門性を理解し、多職種による協働を実践するための基礎的能力を身につけている。（知識・理解、技能）									●		●								●	●	●				●					●	
4.看護を必要とする個人・家族・地域の諸課題に気づき、最善の看護をめざして根拠にもとづいた実践ができる。（知識・理解、思考・判断、技能、態度）							●						●		●	●	●	●			●		●		●			●	●		
5.複雑化する社会での健康課題に対応するために、グローバルな視野をもち、進歩するICTを積極的に活用できる。（知識・理解、技能、態度）					●																	●	●						●		